## 長野県長野高等学校

# 観光を核にした国際都市 NAGANO を担う グローバル・リーダーの育成

### 【構想の概要】

普通科の生徒全員が取り組む探究活動を導入し、グローバル・リーダーに求められる論理的思考力及び発信力の育成をはかる教育課程を研究開発した。学校設定教科「SGH」を設け、総合的な学習の時間を「長野のグローバル戦略を探る」等に編成し、長野の地域力も含めた学校の持つリソースを活かして、活動の成果を発信する国際的な機会を設けた。



1学年ではクラスでの授業を原則に、英数国を中心として基礎的な学力の定着を目指します。2学年からは希望 進路にあわせて文系と理系とに分かれての授業が始まります。3学年では選択する科目の時間が増え、進路実現を 目指します。また、1学年からSGHに関わる科目に取り組み、世界的な視野での思考力や探究力を養います。

1 学年	国語総合			世界史A	現代社会		数学 1			化学基礎	生物基礎	育	保健	音·美・書から1科	コミュニケーション		英語表現 2	W. DESCRIPTION	グローバル経済	計算りララト	総合的な学習・	H
2学年 3学年	代文 育 2 2 体 育		保健 1	芸	1 25	ē.	英語表現Ⅱ	1 1 古典B		2 B	2 2 1 地歷 8 (世B・田B・地B			62科目	T	3 数学I		数学日	2 1 地学 基礎 2	コの対象を	1 総合的な学習	H
				術 1	イション4	1	題 2		古典B 3		也歷 3 日B・地B 61科目)	·地B		数学I	数学81	物理 星		学 2	理科 2 (物·生から 1科目)		な学習 1	R
			חווחווה	英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	現	現代文B		古典B		地歴・公世・日・地から2	也·倫·政	政	数学A 3	3	数学E 3	(	化-	基礎探究4 比·生·地 52科目)	<b>蒜</b>	総合的な学習またはい石川	H
星			ケーション	4	II 2	現代		典B 2	旧·地·倫·		数学Ⅱ2		学A 3 数学B 3			化学		理科 4 (物・生か 1科目)			たはらむは1	1

#### 日課表

	通常の日課	木					
1時限	8:35~ 9:30	8:35~ 9:30					
2時限	9:40~10:35	9:40-10:35					
3時限	10:45-11:40	10:45~11:40					
4時限	11:50-12:45	11:50~12:45					
昼休み	12:45-13:25	12:45~13:25 13:30~14:20					
HR	13:30-13:40						
5時限	13:50-14:45	14:25-15:20					
6時限	14:55~15:50	15:30~16:25					
清掃	15:50-16:05	16:25-16:40					

\*A週・B週の時間割があります。 \*B週別は7時限があります。

### ||全校生徒が探究型学習を実践〜2コマ連続「総合」 ||と学校設定科目「英プロ」通年実施で可能に

長野高校では、SGH 指定翌年の平成 27 年度から、1,2 年生対象で2コマ連続、110分の総合的な学習の授業を隔週で行っている(長野のグローバル戦略を探る・世界から見た長野のグローバル戦略)全校生徒対象の課題研究実践を目指す授業である。通常の時間割に2コマ連続の総合授業を取り入れることで、まとまった時間が確保され、1回の授業で、「協働的な学び」に基づいたプログラムと「探究的学習」を実践するプログラムを連動させた授業が展開できる。例えば、前半でブレストとディスカッション、後半でPCを使ったリサーチとワークシート作成といった効果的な組み合わせである。本校が個人、グループの両方の課題研究を深めていく特徴が出せるのも2コマ連続授業の賜である。

さらに全員必修の学校設定科目「英語プロジェクトI,II」(通称「英プロ」)は、情報の授業内容を踏まえつつ、英語での発信力を育成するプログラムである。海外の高校生との共有スライドを用いたプレゼンテーション共同制作を通じて、グローバル社会でのICTを有効活用した協働性を体験的に学ぶ。ALT・グローバル講師(県独自採用)、英語科職員で企画する。積極的な交流姿勢を育成し、海外とのインターネット交流と訪問交流を後押ししている。これは、主体性の育成にも役割を果たしている。

## 授業と連動して主体性育成の場を提供する

長野高校のSGH活動は「社会に対する主体性」 の育成を目指している。そこで、主体的に関わりた くなる「場」の提供が重要になる。

課題研究の情報収集として実施しているフィールドワークがこの「場」にあたる。 I 年次 11 月(終日)2 年次 6 月(半日)7 月(終日)の 3 回を保証している。長野高校では、総合的な学習の時間の授業内に、生徒達が自ら訪問場所を探し、アポイントをとり、質問内容を考え研究に活かしていく。教員は、締め切り設定、トラブル対応というマネージメント、相談を必要とする生徒への助言という、生徒の主体的な活動のサポートにまわる。ここでは、全職員により組織される班担当制度が機能している。そして、何より、「長野」(県及び市)というコミュ

ニティーの持つ社会教育への情熱と寛容さに支えられている。

台湾での発表活動も主体的に関わりたくなる「場」の提供である。11月に4泊5日、学年全員280人で行う台湾研修旅行では、台湾・高雄市教育局の全面協力の下、7クラスが現地の7高級中学を訪問交流する。生徒達の主体性を引き出す企画である。教員側は現地との調整に加え、「1対1パートナー」「交流グループ」を作り、それぞれが連絡を取り合えるような環境を提供する。相手校には、長野高校が主導する形での発表することを認めてもらった上で、生徒同士が話して、部屋ごとの発表の形式を決める。このプロセスを「英プロ」で行う。このように、グローバルなプロジェクトに主体的に関わる場を生徒に提供する。



## 独自のプログラム・教材開発と成果の普及

集中的にスキル養成を行うため、1年生については、夏季特編授業等を活用して、短期集中プログラム「インタビュー実践」を行う。講師を呼んでインタビューを行う1日とその前後の準備と振り返りの授業で構成される学習である。このプログラムは、大幅にカリキュラムを変更できない学校でも、課題研究導入に使えると思われる。

主に2年次から始める海外研修の発表準備は、課題研究のテーマを台湾でのプレゼンに落とし込み、英語による討論を体験する。そして帰国後、実体験をエビデンス化する所までを一連の流れとしている。長野県では、本校の海外研修を参考に台湾で交流を行う高校が増えてきた。これからも情報教育と英語を組み合わせることで他校においても実践が可能なプログラムを開発していきたいと考えている。